

平成 26 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立茨田中学校

平成 27 年 3 月

平成 26 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立茨田中学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の運営に関する計画・自己評価（最終反省）結果は概ね達成の状況である。学校評価の生徒・保護者アンケート資料の結果から授業がわかる学校（わかりやすいと言っている。）・部活動が活発な学校（部活動を楽しみにしている。）など、各学年とも 8 割以上の生徒・保護者が好意的に捉えている。また、保護者のアンケートからは、学校が生徒の「規範意識の向上」「学校行事等に積極的に取組ませる」などの教育実践を強く推進していると受け止められていることが読み取れる。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：

年度目標：学力の向上

- ① 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査に国語 A・国語 B の正答率を全国基準を上回る。
- ② 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における数学 A・数学 B の正答率を府基準を上回る。

○達成状況の評価に関しては上記目標がすべて達成であるので妥当である。今後も自主学習習慣の定着に向けて、学校元気アップ事業と連携し自主学習会の充実をお願いしたい。学力向上のため、保護者の協力を得ながらの自学自習ができる教材づくり等、さらに基本から応用に発展していく教育活動を実践してほしい。

年度目標：

年度目標：道徳心・社会性の育成

- ① 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における規範意識の項目について、全国基準を上回る。
- ② 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における自尊感情の項目について、全国基準を上回る。

○達成状況の評価に関しては妥当である。規範意識は全国基準より 6 ポイント上回り、昨年の 5 より上回った。自尊感情で「自分によいところがある」「そう思う」が、全国より 0.2 ポイントだけ上回った。

いじめ根絶の取組では、「いじめアンケート」や「部活動の活性化推進」が良い結果になっていると考える。

年度目標

年度目標：健康・体力の保持増進

- ① 平成 26 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女とも全国基準を上回る。
- ② 平成 26 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに合計得点も全国基準を上回る。

○達成状況の評価に関しては妥当である。上記目標は、男子はほぼ達成、女子は 0.5~2.5 ポイント低い。女子の握力は 2 ポイント高いようである。体育祭では学年演技の集団行動で体全体で表現する等、年々質を高めていると考える。また球技大会やマラソン大会等で体力強化に向けた取組みを更に実践してほしい。

3 今後の学校運営についての意見

○生徒・保護者アンケート結果から判断しても、学校運営が円滑に遂行していて非常に評価できる。今後も維持・発展につなげていただきたい。また、開かれた学校づくりとして年 2 回オープンスクールの実施や学校ホームページでの情報発信を頻繁にやっていただいているので、次年度も継続していただき、教育活動の情報周知をお願いしたい。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を、本校は国語・数学のA・B問題すべてにおいて1~3ポイントほど上回ることができた。しかし「生徒質問紙」では、学習活動の言語力の育成や家庭での自学自習で少し低い結果が見られ各領域の課題が見受けられる。

今後、各教科の特性をしっかりと理解させると共に、授業内容の更なる工夫が必要である。特に言語活動の充実を図るために、教科内での話し合いやICT活用などを取り入れながらスキルアップを目指す授業づくりの推進が求められる。

また、自主学習習慣の定着に向けて、家庭学習ができる教材づくりや点検シート等を活用しながら基本から応用・発展へと進展していく教育活動を推進する必要もある。

中期目標**【視点 学力の向上】**

- 平成27年度の全国学力・学習状況調査における国語A・国語Bの正答率を全国基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 平成27年度の全国学力・学習状況調査における数学A・数学Bの正答率を府基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成27年度の全国学力・学習状況調査における規範意識の項目について、全国基準を上回る。
(カリキュラム改革)
- 平成27年度の全国学力・学習状況調査における自尊感情の項目について、全国基準を上回る。
(カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成27年度の全国体力運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに全国基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 平成27年度の全国体力運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに合計得点も全国基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 平成26年度の全国学力・学習状況調査における国語A・国語Bの正答率を全国基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 平成26年度の全国学力・学習状況調査における数学A・数学Bの正答率を府基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成26年度の全国学力・学習状況調査における規範意識の項目について、全国基準を上回る。
(カリキュラム改革)
- 平成25年度の全国学力・学習状況調査における自尊感情の項目について、全国基準を上回る。
(カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに全国基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに合計得点も全国基準を上回る。
(カリキュラム改革関連)

本年度の学校運営全体から判断すると、学力の向上については、年度目標の全国平均率を上回ることができた。また、平均無回答率の結果においては、全国平均率を0.4～2.3ポイント下回ることができ、生徒個々が問題に対して真摯に取り組んでいることが窺える。

道徳心・社会性の育成については、「学校の規則を守っていますか」という規範意識の項目で全国平均より6ポイント上回り、自尊感情の項目でも全国平均率並みであり、今後も学校生活の充実を図り、知・徳・体の調和のとれた人間形成の育成に努めていく。

健康・体力の保持増進については、男女とも、握力においては、全国基準で2ポイントほど上回ることができたが、他の種目においては、低い結果であった。今後、学校行事・学年行事等の球技大会やマラソン大会の取り組みを実施して、持久力、瞬発力等の体力の保持増進の強化につなげていく教育活動を推進していく。

大阪市立茨田中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ① 平成26年度の全国学力・学習状況調査における国語A・国語Bの正答率を全国基準を上回る。 ② 平成26年度の全国学力・学習状況調査における数学A・数学Bの正答率を府基準を上回る。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【自主学習習慣の定着】 学校元気アップ事業との連携で、長期休業中や各学年での放課後自主学習会を実施して、自主的に学習に取り組む態度を育成する。	A
指標 自主学習会を計画的に実践していく。	
取組内容②【各教科（9教科）】 各教科の具体的方策を推進していく。	A
指標 各教科での指導内容の工夫・改善を実践していく。	
取組内容③【言語力や論理的思考能力の育成】 二年次・五年次・十年次の教員を中心とした研究授業や相互授業参観を通して、授業力のスキルアップにつなげていく。	B
指標 年間行事に授業研究週間を位置付けて、計画的に推進していく。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○ 本年度の全国学力・学習状況調査における国語・数学A・Bの正答率では全国基準を上回ることができた。
【取組の進捗状況】について ① 自主学習習慣の定着に向けて、学校元気アップ事業との連携で各学年自主学習会をテスト前・長期休業中に計画的に実施することができ、参加率も年々増加傾向で定着化している。 ② 授業研究については、今年度は、全教員が「学び続ける事業」の一環として研究授業を計画的に実施することができた。相互授業参観を通して、教科間や他教科との情報交流を図り指導方法の工夫・改善につなげ授業力の向上を推進した。
次年度への改善点

【目標設定】について
○ 本年度の生徒・保護者アンケートの結果で「復習・テスト直しなどの家庭学習を頑張った」という設問で、家庭学習ができていないと答えた生徒の割合が、1年生40%、2年生40%、3年生24%であった。今後、その結果を踏まえて、家庭での自学自習の定着化を図る必要が

ある。学力向上の充実のため保護者の協力を得ながら、自学自習ができる教材づくりや点検シート等を活用しながら基本から応用・発展に進展していく教育活動を実践していく。

大阪市立茨田中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ○ 平成26年度の全国学力・学習状況調査における規範意識の項目について、全国基準を上回る。 ○ 平成26年度の全国学力・学習状況調査における自尊感情の項目について、全国基準を上回る。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【人権を尊重する教育の推進】 人権尊重の教育を計画的に推進し、仲間を大切にする心の教育の育成に努めていく。	A
指標 人権・道徳教育の目標に向けて、計画的に実践していく。また、いじめを未然に防ぐためのアンケートを毎月実施していく。	
取組内容②【問題行動への対応】 時間を守る。ルールを守る。聴く態度を育成する。	A
指標 全体指導・個別指導をきめ細かく行い、意識の向上を図っていく。	
取組内容③【小中一貫した教育の推進】 教育目標とめざす子ども像を小中で共有し、協働体制で実践していく。	B
指標 小中連携委員会での情報交換を充実させていく。	
取組内容④【不登校生への対応】 年間欠席者総数を減らす。 いじめアンケートを毎月実施し、教育相談を充実させる。	A
指標 教育相談を計画的に実践していく。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○ 生徒質問紙における規範意識の項目については、全国基準より6ポイント向上することができた。自尊感情の項目についても全国基準並みであった。
【取組の進捗状況】について ① 毎月、いじめアンケートの実施と教育相談の充実を図り、未然防止に努めた。 ② 基本的な生活習慣の充実を図るうえで、部活動の活性化を重点に置き、時間を守る・ルールを守る・聴く態度を育むために部活動集会、キャプテン会議等を行い、善悪の判断・規範意識の重要性を指導し、今後も持続と発展につなげることができた。

③ 保護者・関係諸機関・教職員の連携を密にして、不登校・支援を要する生徒等への現状把握と適切な対応に努めた。

次年度への改善点

○ 次年度、道徳のカリキュラムにいじめの年間指導計画を作成し、人権・道徳教育の充実を深めていく必要がある。また、支援を要する生徒への対応についてさらに全教職員の共通理解のもと、協働体制の構築が必要不可欠である。

大阪市立茨田中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】	
○ 平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに全国基準を上回る。 ○ 平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における上体起こし・持久力の平均の記録を男女ともに合計得点も全国基準を上回る。	(カリキュラム改革関連) (カリキュラム改革関連) B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体育科の授業の充実】 実技指導を通して、集団行動を身につけさせ、運動に親しむ心を育て育てるとともに、体育祭の学年演技の質を高める。	A
指標 成果と課題を検証し、心身の向上を実践していく。	
取組内容②【体力向上への支援・体育的活動の充実】 1・2年耐寒マラソンを学校行事として実施し、運動能力を増進させる活動を推進していく。 部活動は市大会優勝を目指す。	B
指標 年間行事に位置付けて、計画的に実践していく。部活動の加入率をあげる。	
取組内容③【健康な生活習慣の確立】 保健指導を通して、心身ともに健康な生活を送るための知識理解を深め、自己の健康管理のできる生徒の育成に努める。また、命の大切さに気づかせる。	B
指標 あらゆる教育活動を通じて、心身の調和のとれた計画を実践していく。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について
○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女とも握力で、全国基準を上回ったが、他の種目は全国基準を下回った。
【取組の進捗状況】について
① 体育祭では、1年生ソーラン節、2年生集団演技、3年生組体操を通して、集団行動や全体を動かしての表現等で各学年の演技の質を高めることができた。

② 各学年で球技大会やマラソン大会等の取り組みを実施し、持久力・瞬発力等の強化に向けて取り組みを実践した。

剣道部女子個人で近畿大会出場。陸上部四種競技で全国・近畿大会出場。

水泳個人 50m自由形で近畿大会出場。

③ 毎月保健だよりを作成・配布し、健康面・安全面等の理解を深めさせ、生活習慣の確立を図ることができた。

次年度への改善点

○ 生徒質問紙の「朝食を毎日食べていますか」の項目においては、全国基準に7ポイントほど低く、教職員の共通理解のもと、生徒会専門委員会を活用しながら食生活が個々の体力・知力に影響を及ぼすものであることを指導していく必要がある。